講義科目名称：キリスト教学 Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：Christianity Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
青野　和彦			

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、本学の建学の設立の経緯と理念の学びをはじめ、諸外国の文化や社会生活に多大な影響を与えてきたキリスト教の聖典である旧約・新約聖書の概要（それぞれのメッセージ、時代背景、社会生活等）を初めてキリスト教にふれる学生を考慮して解説していく。また本講義を通して、聖書全体の思想的特色を明らかにするとともに、現代世界が抱える諸課題、特に異民族間の「平和と共生」に関する聖書のメッセージも多角的に学んでいきたい。
授業計画	第１回　導入：授業オリエンテーション、キリスト教と建学の精神と設立の経緯 第２回　旧約聖書を学ぶ①旧約聖書」の概要（緒論）と時代背景 第３回　旧約聖書を学ぶ②「天地創造物語」－人間と世界の創造－ 第４回　旧約聖書を学ぶ③「天地創造物語」（アダムとエバ、カインとアベル）－人間の「原罪」－ 第５回　旧約聖書を学ぶ④イスラエル族長長の生涯（アブラハム、イサク、ヤコブさらにヨセフ） 第６回　旧約聖書を学ぶ⑤モーセと「出エジプト」 第７回　旧約聖書を学ぶ⑥イスラエル王国の成立と王たちの生涯(サウロ､ダビデ､ソロモン) 第８回　旧約聖書を学ぶ⑦イスラエル王国の分裂と滅亡史 第９回　旧約聖書を学ぶ⑧預言者達の活動 第１０回　旧約聖書を学ぶ⑨信仰による文学 第１１回　新約聖書を学ぶ①新約聖書の概要（緒論）と時代背景 第１２回　新約聖書を学ぶ②福音書の内容とイエス・キリストの生涯 第１３回　新約聖書を学ぶ③イエス・キリストの「たとえ話し」（Parable）のメッセージ 第１４回　新約聖書を学ぶ④イエス・キリストの十字架と復活の意味とメッセージ 第１５回　総括：教会の歩みと使徒達の活動、その延長上にある本学院の建学の理念との関連性
授業の概要	【講義概要】 本講義では、①本学の建学理念と設立の経緯、②旧約聖書、③新約聖書の概要、時代背景、各文書のメッセージを聖書、教科書（指定）、配布資料を通して解説してゆく。最終的にそれらの学習を通して、上記の目標の到達を目指す。特に、旧約・新約聖書の体系的な把握ができるよう努めたい。 【展開方法】 ①担当教員によるテーマに関する質問、②それに関するテーマ内容の解説（聖書、教科書、配布資料から）、③学生からの質問と要約の順序で講義を進行する。また必要に応じて、テーマに関連する画像や動画も適宜紹介する。
予習	毎時間、次回講義で扱うテーマに関連する教科書および配布資料を通読し、事前に内容把握に努める。
復習	毎時間配布する簡潔な「レビュー・シート（復習プリント）」を次の講義終了後に提出する。その内容は、①テーマに関する問い（1問）＋②講義の要点整理・学生からの質問（1つ）からなる。この学習によって、各講義内容をより適確に把握できる。
テキスト	・日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳　日本聖書協会、1987年。 ・後藤田典子『キリスト教との出会い　旧約聖書』、日本キリスト教団出版局、2002年 ・富田正樹『キリスト教との出会い　新約聖書』、日本キリスト教団出版局、2002年 ・川崎　正明『旧約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。 ・四竈　揚『新約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。
参考書	・川崎　正明『旧約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。 ・四竈　揚『新約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。 ・大城　実　『聖書と思想と世界』　沖縄コロニー印刷、2000年。

	・大貫隆、名取四郎、宮本久雄、百瀬文晃編『キリスト教辞典』、岩波書店、2002年。
評価方法・評価基準	【平常点】40％：①「復習プリント」、②課題、③授業参加度。 ※「月曜礼拝」出席も本学の建学の精神、聖書およびキリスト教の幅広い理解の向上の観点から、評価に反映させる。 【期末試験（レポート）】60％ ・期末レポートは講義で扱ったテーマを１つ選択し、作成する。なお、テーマ選択方法や書式の詳細については講義の　　中で連絡する。
履修上の注意	・毎回『聖書』（新共同訳版）、上記の教科書を購入の上、必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」の出席を奨励する。 ・出席(毎回とる)。欠席・遅刻をしないよう注意。 ・課題の提出および学生として相応しいマナーを心がけること。 ・講義やキリスト教に関する質問があれば、講義時あるいは「オフィス・アワー」を利用するとよい。

講義科目名称：キリスト教学 Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：Christianity Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
青野　和彦・望月　智			

授業のテーマ及び到達目標	本講義は西洋キリスト教史を中心に、日本のキリスト教史の特色（主に事件と人物の思想）の正確な把握、もう一つの世界宗教であるイスラム教の特色とキリスト教との関係、を分かりやすく解説することを目的とする。またこの学習を通して、現代の国際社会の諸相および思想的バックグラウンドを正確に読み解き、平和構築に向けて必要な教養の習得も目指したい。
授業計画	第１回　授業オリエンテーション（概要と目的、評価方法の説明） 第２回　日本のキリスト教史 第３回　米国キリスト教史 第４回　人種問題とキリスト教①：16世紀中南米キリスト教史 第５回　人種問題とキリスト教②：南アフリカの「アパルトヘイト」 第６回　視聴覚教材による学習（人種問題に関して） 第７回　古代キリスト教史①：初代教会史 第８回　古代キリスト教史②：キリスト教会とローマ帝国 第９回　古代キリスト教史③：古代カトリック教会 第１０回　中世キリスト教史：ゲルマン民族への浸透、東西教会の分裂、十字軍遠征の功罪、中世文化及び大学（universitas）の設立 第１１回　イスラム教の成立：起源、思想・制度的特色、キリスト教との共通点・相違点 第１２回　宗教改革史①：マルティン・ルターによるドイツ宗教改革 第１３回　宗教改革史②：ジャン・カルヴァンによるスイス宗教改革史 第１４回　カトリックの反宗教改革史（イグナティウス・デ・ ロヨラ創設によるイエズス会の活動を中心に） 第１５回　近世ヨーロッパのキリスト教史（イングランドを中心に）
授業の概要	【講義概要】 キリスト教の歴史的発展を原始キリスト教会から現代までの歩みを概観し、歴史に生きるキリスト教会の遺産を検証しつつ、現代世界と社会に横たわるキリスト教世界の諸課題を探る。順序としては、身近な日本のキリスト教史、そこに影響を与えた米国キリスト教史から始め、ヨーロッパを中心とするキリスト教の成立史を扱う。また、その過程でキリスト教から見た人種問題の歴史、キリスト教とイスラム教との関係にもふれる。 【展開方法】 ①担当教員によるテーマに関する質問、②それに関するテーマ内容の解説（聖書、教科書、配布資料から）、③学生からの質問と要約の順序で講義を進行する。また必要に応じて、テーマに関連する画像や動画も適宜紹介する。
予習	次回のテーマに関する教科書、資料（事前配布）を読み、事前に学習内容を把握しておく。
復習	毎時間配布する簡潔な「レビュー・シート（復習プリント）」を次の講義終了後に提出する。その内容は、①テーマに関する問い（1問）＋②講義の要点整理・学生からの質問（1つ）からなる。これによって、各テーマをより確実に理解ができよう。
テキスト	・日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳、日本聖書協会、1987年。 ・斎藤正彦『キリスト教の歴史』、新教出版社、2005年。 ※使用テキストは初回講義時に説明するので、確認してから購入すること。
参考書	・荒井献・出村彰・出村みや子『総説キリスト教史1～3』、日本キリスト教団出版局、2006・07年、他。なお、参考図　書は毎回の講義時に配布する資料に記載しておく。
評価方法・評価基準	【平常点】40％：①「復習プリント」、②課題、③授業参加度。 ※「月曜礼拝」出席も本学の建学の精神、聖書およびキリスト教の幅広い理解の向上の観点から、評価に反

	映させる。 【期末試験（レポート）】60% ・期末レポートは講義で扱ったテーマ（キリスト教史の中の人物の思想と生涯あるいは歴史的事件）を１つ選択し、作成　する。なお、テーマ選択方法や書式の詳細については講義の中で連絡する。
履修上の注意	・保育科の当該教員担当クラスでは「新約聖書学」をテーマとして講義する。その講義目標、計画、概要、予復習の内　　容、教科書、評価方法・評価基準、履修上の注意は初回の授業時に資料を配布・説明する。 ・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。 ・出席(毎回とる)、課題提出および学生として相応しいマナーを心がけること。 ・「キリスト教Ｉ」を履修しておくこと。 ・講義やキリスト教に関する質問があれば、講義時や「オフィス・アワー」を利用するとよい。

講義科目名称：表現技法　　授業コード：

英文科目名称：Reading and Writing Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	2単位(1-1)	必修科目
担当教員			
上原　明子・新垣　俊			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：新書読書の意義を認識し、新書読書の方法を学ぶ事ができる 思考判断：ロジカルシンキングとクリティカルシンキングを鍛えることができる 関心意欲：社会事象・課題について、自分事として捉え、提言することができる 態度　　：学ぶことの喜びを感じ、学ぶことへの責任を自覚することができる 上記の４つの到達目標は、初年次教育の一環として、大学教育に必要な学修方法の習得を目指すものである。
授業計画	第１回　　オリエンテーション/図書館ツアー（前期クラスのみ）/「研究倫理規程」について 第２回　　精読（１）新書読書入門 第３回　　精読（２）新書読書実践 第４回　　批判的読み 第５回　　要約（１）キーワードについて 第６回　　要約（２）T字ノート分析 第７回　　要約（３）段階的再構築 第８回　　要約文まとめ 第９回　　ブックリポート（１）概要説明 第１０回　　ブックリポート（２）下書き提出 第１１回　　ブックリポート（３）口頭報告・清書提出 第１２回　　提言文（１）テーマ決定 第１３回　　提言文（２）計画書作成 第１４回　　提言文（３）下書き提出 第１５回　　提言文（４）口頭報告・清書提出
授業の概要	新書読書を通して、読書力、要約力、批判的思考力、論理的思考力を鍛える。 各テーマを、複数回行うことにより、段階的に学べる仕組みとなっている。
予習	シラバスを確認し、副読本の部分を読んでくること
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	指定の新書を購入のこと
参考書	講義にて紹介
評価方法・評価基準	1　ブックリポート30%　2　提言文50%　3　その他課題への取り組み20%
履修上の注意	・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください

講義科目名称：コンピュータリテラシー　　授業コード：

英文科目名称：Computer Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	2単位(0-2)	必修科目
担当教員			
内間　清晴・高江洲　義尚			

授業のテーマ及び到達目標	PCの基礎的操作方法を習得させる。具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法等が実践的に修得できる。 (1)　基本的な情報倫理の理解ができる。 (2)　電子メールの送受信・転送設定等ができる。 (3)　200字以上／１分間のタイピング能力が身についている。 (4)　インターネットを活用し、基礎的な情報収集ができる。 (5)　ワープロによる文章の作成ができる。 (6)　表計算ソフトによる数値情報の分析ができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション：①パソコンの概念　②使用登録・パスワードの設定 ③電子メールの設定 第２回　パソコンの概念：①Windowsの基本操作　②OSの基本操作　③インターネット 第３回　Word2013：①Wordの基本操作　②文章の作成保存 第４回　Word2013：①文章のデザイン 第５回　Word2013：①書式の応用 第６回　Word2013：①表示能力を高める　②オブジクトの挿入 第７回　Word2013：①はがき文書の作成　②図形の作成 第８回　Word2013：①表の作成　②表の編集 第９回　Excel2013：①基本操作　②一覧表の作成　③データの入力 第１０回　Excel2013：①計算式の入力 第１１回　Excel2013：①関数式の入力 第１２回　Excel2013：①グラフの作成 第１３回　Excel2013：①グラフのデザインおよびレイアウト 第１４回　Excel2013：①データの並べ替え　②データの検索　③データへの条件設定 第１５回　Excel2013：①データへの条件設定　②まとめ
授業の概要	① コンピューター操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、加工、創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピューターを日常使いこなせるための基礎を学ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。 ② 毎回の演習内容を復習し次回の演習の予習を行う。（15回分の講義内容は指定フォルダ内にあります。）
予習	指定されたフォルダ（イントラネット）から１～15回までの講義内容を常に確認し、次回の講義内容を確認し、予習する。
復習	毎回の講義内容を復習し、与えられた課題を行う。
テキスト	『例題30+演習問題70でしっかり学ぶWord/ExceI/PowerPoint標準テキスト
参考書	よくわかるWord2013, よくわかるExcel2013
評価方法・評価基準	課題80点,タイピング10点, 授業への参加意欲10点 全３６までの課題の提出状況（提出した課題内容が不十分なときは、再提出させます。） タイピングの能力
履修上の注意	各自USBメモリーを準備すること 演習の授業です。受け身にならず、積極的に課題に取り組んで下さい。

講義科目名称：文学と読書　　授業コード：

英文科目名称：Literature and Reading

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
上原　明子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：文学に対する造型を深めることができる 思考判断：鍛錬型読書を通じ、批判的思考力、共感的想像力を培うことができる 関心意欲：単独読書と協同読書の体験により、読書の喜びを味わうことができる 態度　　：作家の思考や作品のテーマ、文体に対して深く感応するようになる
授業計画	第１回　　オリエンテーション　～読書習慣と読書愛を育むことの意義～ 第２回　　ジャンル1：絵本 第３回　　ジャンル2：児童図書 第４回　　ジャンル3：エッセイ 第５回　　ジャンル4：小説 第６回　　ビブリオプレゼン①　理論 第７回　　ビブリオプレゼン②　実践 第８回　　ビブリオバトル 第９回　　宮沢賢治①「よだかの星」（朗読鑑賞） 第１０回　　宮沢賢治②「銀河鉄道の夜」（文献比較） 第１１回　　内村鑑三「後世への最大遺物」（評論検索） 第１２回　　武者小路実篤「馬鹿一」（内容論） 第１３回　　ジャンル5：詩歌　吉野弘「生命は」他 第１４回　　ジャンル6：評論　長田弘『なつかしい時間』（岩波新書）より 第１５回　　まとめ、プレゼン・レポート
授業の概要	青年期に必要な鍛錬型読書を体系的に学び、読書力の養成を行なう。多様な文学作品に触れることで、自己の生き方への考察を深めると同時に、作品の鑑賞、作家論の学習に加え、作品朗誦を行うことにより、読書の身体化を図る。 毎回の講義の始めに副読本の15分読書を行い、協同読書の楽しみを学ぶ。
予習	シラバスを確認し、授業で扱う作品を精読しておくこと。
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと。
テキスト	シラバスに示された作品や資料のコピーを教師が適宜配布する。
参考書	授業の中で指示。
評価方法・評価基準	課題や発表への取り組み等を総合的に評価する。 課題の提出50%　ビブリオプレゼンへの取り組み50%
履修上の注意	副読本を購入してください。(毎回の講義の協同読書にて使用)

講義科目名称：朗読の科学　　授業コード：

英文科目名称：Interpretative Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
上原　明子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：日本語の音声学、朗読の表現方法の理論を学ぶ 思考判断：作品のリズム構造の分析や群読表現を通して、作品への理解を深める 関心意欲：集団でのパフォーマンスを楽しみ、意連の喜びを感じる 態　　度：グループ、クラス単位でのパフォーマンスにおける責任感を培う
授業計画	第１回　「深い呼吸に支えられた深い声（１）身体と対話する」 第２回　「深い呼吸に支えられた深い声（２）声を感じる」 第３回　「美しいリズムと声の響き（１）母音」 第４回　「美しいリズムと声の響き（２）子音」 第５回　「美しいリズムと声の響き（３）日本語の母音と子音」 第６回　「美しいリズムと声の響き（４）内に向かうリズムと外へ開くリズム」 第７回　「美しいリズムと声の響き（５）日本語作品のリズム構造の分析」 第８回　「群読の技法（１）」 第９回　「群読の技法（２）」 第１０回　中間まとめ 第１１回　「表現する（１）作品の読み込み・読み譜つけ」 第１２回　「表現する（２）　間の取り方」 第１３回　「表現する（３）　意識を連ねる」 第１４回　「表現する（４）　ゲネプロ（衣装着用）」 第１５回　発表会「コトバの渚」・最終まとめ・レポート
授業の概要	日本語の音声学的知識と、実践的な音声表現を学ぶことにより、新しい切り口からの文学体験を行うことを目的とする。１５回のうち、前半は、音声学や群読の基礎力を養成し、後半は、表現のための実践トレーニングを行う。 毎回のクラスは、３つの部分から構成されている。 Ⅰ．　体操・呼吸法・発声 Ⅱ．　日本語の音声学・群読の技法　講義 Ⅲ．　課題への取り組み
予習	シラバスを確認し、講義内容への知識を整えておくこと
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	講師配布資料を配布。
参考書	テーマ毎に指示する。
評価方法・評価基準	①　授業態度 ②　日本語音声学についてレポート ③　「コトバの渚」参加 ④　最終レポート提出
履修上の注意	①体操のできる服装で参加すること②講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと ③「ことばの渚」とゲネプロに参加できることが履修条件

講義科目名称：日本国憲法　　授業コード：

英文科目名称：Japanese Constitution

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	１～２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
仲宗根　京子			

授業のテーマ及び到達目標	そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。
授業計画	第１回　ガイダンス、法学概論 第２回　近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ 第３回　日本国憲法の基本原理（憲法とは誰を縛るルールか？） 第４回　人権総論（人権の分類、他） 第５回　法の下の平等 第６回　子供の権利、新しい人権 第７回　精神的自由　総論 第８回　精神的自由　各論（表現の自由） 第９回　表現の自由の現代的展開 第１０回　経済的自由（財産権保障の構造他） 第１１回　社会権（自由権とはどう違うのか？） 第１２回　その他の人権、まとめ 第１３回　統治総論 第１４回　国会および内閣 第１５回　裁判所、平和主義 第１６回　まとめ　期末試験
授業の概要	まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に解説します。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。
予習	配付レジュメや教科書の該当箇所を読んで来てください。
復習	講義で指示した点を復習してください。
テキスト	初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門第4版』有斐閣アルマシリーズ（有斐閣）
参考書	初宿正典他著『目で見る憲法　第４版』（有斐閣）
評価方法・評価基準	期末試験の結果：50%　授業への参加度：30%　授業態度：20%　などから総合的に評価する。
履修上の注意	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

講義科目名称：心理学　　授業コード：

英文科目名称：Introduction to Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
仲村　將義			

授業のテーマ及び到達目標	身の回りの行動や現象について、心理学的に理解する。
授業計画	第１回　　オリエンテーション　構成的グループエンカウンター 第２回　　心理学の歴史と方法　哲学から科学へ・４つの潮流 第３回　　行動主義（刺激・反応で心を説明）　行動は学習による 第４回　　ゲシュタルト心理学（全体論）と精神分析学（人を動かす無意識） 第５回　　性格形成論（性格の成り立ち）と防衛機制（心の守り方） 第６回　　自己決定性と目的論　人生の課題と勇気づけ 第７回　　現代心理学　進んだ細分化・専門化 第８回　　自分を知る心理学　エゴグラム他 第９回　　恋愛に使える心理学　男女の違い 第１０回　　恋愛の心理メカニズム　うまくいく恋の仕組み 第１１回　　「仕事」に使える心理学　役割による人間関係 第１２回　　人間関係に使える心理学　つきあい・ふれあいの仕方 第１３回　　折合いをつける心理学　自他の欲求調整法 第１４回　　ストレス対処の心理学　上手な怒り方とリラックス法 第１５回　　自分に活かす心理学　成りたい自分になる方法 第１６回　　期末試験
授業の概要	１．心理学の各分野の知見について、グループワークで学ぶ。 ２．心理学の知識を、受講者相互の日常的な現象と結びつけて理解する。 ３．心理学の見方や考え方を日常の人間関係や学業等に活かす力を育てる
予習	講義の終わりに、次回の予習課題を示す。
復習	出席用紙にそのつど本時の講義の要旨と感想をまとめるか小テストを行う。
テキスト	匠　英一『これだけは知っておきたい心理学の基本と実践テクニック』フォレスト出版　1300円（税別）
参考書	植木理恵　『ビジュアル図解　心理学』　中経出版　1400円（税別） ジンバルドー　『現代心理学』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ　サイエンス社　各3,132円、3,040円、3,320円
評価方法・評価基準	期末試験65%　授業内レポート20%　発表5%　演習5%　授業への参加度5%
履修上の注意	５回以上の講義欠席は、履修不足につき単位を認定できないので注意してください。

講義科目名称：カウンセリング　　授業コード：

英文科目名称：Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
柳田　正豪			

授業のテーマ及び到達目標	カウンセリング技能：基本的な技法を用いてカウンセリングを行うことができる。 カウンセリング理論：基本的なカウンセリング理論を学び心や認知のメカニズムを学ぶ。
授業計画	第１回　カウンセリングとは何か 第２回　臨床心理とカウンセリング 第３回　カウンセリング理論と技術 ①　精神分析療法 第４回　カウンセリング理論と技術 ②　行動療法 第５回　カウンセリング理論と技術 ③　認知行動療法 第６回　カウンセリング理論と技術 ④　来談者中心療法 第７回　ピアヘルパー ① 第８回　ピアヘルパー ② 第９回　ピアヘルパー ③ 第１０回　ピアヘルパー ④ 第１１回　カウンセリング演習 ① 第１２回　カウンセリング演習 ② 第１３回　カウンセリング演習 ③ 第１４回　精神疾患について 第１５回　発達障害について 第１６回　期末試験
授業の概要	カウンセリングを学習するにあたっては、複数の理論と技法を学ぶ必要があるといわれ、また学習方法としては、ロジャーズの「来談者中心的カウンセリング」から始めた方が適切であるといわれている。 人間の心の問題および人間関係の問題に際しての基本的なウンセリング理論や技術等を、講義・演習・討議をとおして学習する。
予習	レジュメを読み、事前に講義を再確認しておくこと。
復習	毎回の授業を復習し、毎クイズに備える。
テキスト	日本教育カウンセラー協会編2002『ピアヘルパー ハンドブック』　図書文化
参考書	影山任左　著　『図解雑学　心の病と精神医学』ナツメ社 福山清蔵　著　『入門　カウンセリングワークブック』日本・精神技術研究所 国分康孝　著　『カウンセリングの理論』誠信書房
評価方法・評価基準	期末試験40%　小テスト30%　授業への参加度20%　その他10%
履修上の注意	授業内で配布した資料は期末テストに出るので、大切に保管すること。

講義科目名称：体育理論　　授業コード：

英文科目名称：Physical Education(Theory)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	1単位(1-0)	選択必修科目
担当教員			
島袋　桂			

授業のテーマ及び到達目標	現代社会に生きる人々や自分自身の「からだと内面（こころ）」について認識し、よりよいライフスタイルを構築するための知識と態度を養うことができる。
授業計画	第１回　コースオリエンテーション：健康とは？ 第２回　テーマの決定 第３回　グループワーク① 第４回　グループワーク② 第５回　グループワーク③ 第６回　発表 第７回　発表 第８回　発表：結果の発表 第９回　後半：テーマの決定 第１０回　グループワーク④ 第１１回　グループワーク⑤ 第１２回　グループワーク⑥ 第１３回　発表 第１４回　発表 第１５回　発表：結果の発表
授業の概要	授業は、アクティブラーニングの手法を用いて進めていく。 前半は、グループ毎にテーマを決め、現代の健康問題に関し調査し、模擬授業として発表を行い、各テーマに対しての学びを深める。 後半は、問題への解決方法を探り、同学年へ向けた、健康問題改善の為の取り組みをグループ毎に考案し、提案を行う。
予習	それぞれのテーマに沿った健康問題に関する情報を収集して授業に臨む。
復習	講義で感じた疑問や発見を振り返り、自身の生活と照らし合わせる。
テキスト	テキストは使用しない。講義ごとに資料を配布する。
参考書	九州大学健康科学センター編　『健康と運動の科学』　大修館書店
評価方法・評価基準	レポート40点（中間20点、期末20点）、授業への参加度60点による。
履修上の注意	.

講義科目名称：体育実技　　授業コード：

英文科目名称：Physical Education (Sports)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	1単位(0-3)	選択必修科目
担当教員			
音野太志・真栄城勉			

授業のテーマ及び到達目標	1)スポーツの楽しさ、喜びを味わうことができる。 2)スポーツに対して、「真剣に」「コミュニケーションを図りながら」実践することを通し、諸課題を解決しながら、個人またはグループの成長プロセスに介入できるようになる。
授業計画	第１回　コースオリエンテーション(授業概要、目標、成績評価方法、等) 第２回　イニシアティブゲーム 第３回　ソフトバレーボール：練習、ゲーム 第４回　ソフトバレーボール：練習、ゲーム 第５回　ソフトバレーボール：練習、ゲーム 第６回　インディアカ：練習、ゲーム 第７回　インディアカ：練習、ゲーム 第８回　インディアカ：練習、ゲーム 第９回　ドッジビー：練習、ゲーム 第１０回　ドッジビー：練習、ゲーム 第１１回　ドッジビー：練習、ゲーム 第１２回　ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム 第１３回　ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム 第１４回　ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム 第１５回　ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム
授業の概要	ドッジビー、ソフトバレーボール、インディアカをとりあげる。毎授業では練習と試合を実施する。 個人とグループの諸課題について、1)実践　2)ふりかえり　3)次の課題設定　4)実践というプロセスを繰り返すことによって、個人またはグループの成長プロセスを考える機会とする。
予習	体調を整えて授業に備える。
復習	授業内容を振り返り、次の授業に備える。
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業への参加度60点　実技評価40点　計100点による。実技評価は、各種目のゲーム結果とする。
履修上の注意	1)　体育館用のシューズを準備し、運動にふさわしいウェアーで参加すること。 2)　金属製のピアス、ネックレス、ブレスレット等、人を傷つけ、傷つけられる恐れのあるモノは外すこと。 3)　その他の注意事項は初回授業時に伝達する。

講義科目名称：日本語音声表現Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：Japanese Speaking and Listening Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年	1単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
上原　明子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：日本語音声の音声学的知識により、効果的な音声表現訓練へつなげることができる 思考判断：日本語での効果的なプレゼンについてセルフ・ラーニングできる 関心意欲：日本語音声に対する積極的な取り組みを通し、学ぶ意欲を喚起することができる 態度　　：日本語力を高めることで、日本社会への積極的な関わりを持てるようになる
授業計画	第１回　オリエンテーション、レベルチェッククイズ 第２回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第３回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第４回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第５回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第６回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第７回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第８回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第９回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第１０回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解

	④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第１１回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第１２回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第１３回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第１４回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題 第１５回　テキスト1課～１４課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。 クラス展開：①　確認テスト(テキストについて、課題確認) ②　トピックについての事前学習 ③　聴 解 ④　語彙、内容確認 ⑤　聞き取りのストラテジーの講義と実践 ⑥　課 題
授業の概要	日本語音声表現Ⅰ・Ⅱを通じ、大学で学ぶのに必要な日本語の聞き取り力、音声表現能力の向上を目的とし、聞き取りのストラテジーの養成、スピーチ、ニュースや文学作品の朗読についての学習を行う。 Ⅰでは、聞き取りの基本的な学習とニュースやスピーチ、対談、講義など、様々なタイプの音声テキストを使用し、聴解力の養成を行う。
予習	シラバスを確認して、テキストを読んでくること
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	１．山本富美子・工藤嘉名子『国境を越えて〔本文編〕』新曜社 ２．山本富美子・工藤嘉名子『国境を越えて〔文型・表現練習編〕』新曜社
参考書	特になし
評価方法・評価基準	毎回の授業ごとの確認テスト50%　受講者の発表30%　授業態度20%
履修上の注意	①日本語音声表現ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。 ②復習､課題をきちんとこなすこと。　③辞書等を持参すること。

講義科目名称：日本語音声表現Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：Japanese Speaking and Listening Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年	1単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
上原　明子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：日本語音声の音声学的知識により、効果的な音声表現訓練へつなげることができる 思考判断：日本語での効果的なプレゼンについてセルフ・ラーニングできる 関心意欲：日本語音声に対する積極的な取り組みを通し、学ぶ意欲を喚起することができる 態度　　：日本語力を高めることで、日本社会への積極的な関わりを持てるようになる
授業計画	第１回　　オリエンテーション、レベルチェッククイズ 第２回　　日本語音声について〔声に出して読むこと、文章の読み方、リズム構造〕 第３回　　日本語音声について〔声に出して読むこと、文章の読み方、リズム構造〕 第４回　　日本語音声について〔声に出して読むこと、文章の読み方、リズム構造〕 第５回　　音声表現の技法①　〔文体との関係、叙述文と状況描出文、ニュース〕 第６回　　音声表現の技法①　〔文体との関係、叙述文と状況描出文、ニュース〕 第７回　　音声表現の技法①　〔文体との関係、叙述文と状況描出文、ニュース〕 第８回　　音声表現の技法②　〔テンポ、内容分析と演出、朗読〕 第９回　　音声表現の技法②　〔テンポ、内容分析と演出、朗読〕 第１０回　　音声表現の技法②　〔テンポ、内容分析と演出、朗読〕 第１１回　　音声表現の技法③　〔スピーチ〕 第１２回　　音声表現の技法③　〔スピーチ〕 第１３回　　音声表現の技法③　〔スピーチ〕 第１４回　　音声表現の技法③　〔スピーチ〕 第１５回　　音声表現の技法③　〔スピーチ〕
授業の概要	日本語音声表現Ⅰ・Ⅱを通じ、大学で学ぶのに必要な日本語の聞き取り力、音声表現能力の向上を目的とし、聞き取りのストラテジーの養成、スピーチ、ニュースや文学作品の朗読についての学習を行う。 Ⅱでは、Ⅰの学習を展開させ、内容分析と表現方法についての学習を行ない、スピーチや朗読等、音声言語での表現力の養成を行う。
予習	シラバスを確認して、事前配布の資料を練習してくること
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	講師作成資料配布
参考書	特になし
評価方法・評価基準	毎回の授業ごとの確認テスト50%　受講者の発表30%　授業態度20%
履修上の注意	①日本語音声表現ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。 ②復習､課題をきちんとこなすこと。　③辞書等を持参すること。

講義科目名称：中国語　　授業コード：

英文科目名称：Chinese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	１～２年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
武村　朝吉			

授業のテーマ及び到達目標	中国語の発音（声調コントロールを含む）の基礎を習得する。それと並行して、基本的な文法事項を理解（約30個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会話ができることを目標とする。
授業計画	第１回　中国語の発音、ピン音、声調 第２回　発音練習、ピン音書き取り練習 第３回　“？”を用いた疑問文 第４回　疑問代名詞を用いた疑問文 第５回　形容詞述語文 第６回　動詞述語文 第７回　所属・所有関係を表す連体修飾語 第８回　“是”文、名詞述語文 第９回　提案の仕方、“有”文 第１０回　介詞構造 第１１回　時間詞 第１２回　連動文 第１３回　連用修飾語 第１４回　方位詞 第１５回　反覆疑問文 第１６回　期末試験
授業の概要	中国語のピン音（発音記号）の概要を説明すると同時に、個々の発音・声調の具体的発声方法の充分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、作文練習を行う。この授業では、テキストの第1課から第10課までを学習する。
予習	授業内容を事前に目を通しておくこと。
復習	ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。
テキスト	『漢語会話301句』康玉華・来思平著作，語文研究社
参考書	特になし
評価方法・評価基準	期末試験80%　授業態度10%　受講者の発表10%
履修上の注意	相互（学生⇔教師，学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には充分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ充分な復習を行うよう努めること。5回以上欠席で「不可」とする。

講義科目名称：韓国語　　授業コード：

英文科目名称：Korean

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
李　春花			

授業のテーマ及び到達目標	本授業を通し、韓国語のみならず隣国である韓国の文化や社会に対する理解を深め、21世紀の主役として、国の境界線を越えたグローバルな視点を養い、将来様々な形で国際的交流に役立つ能力を身につける。 知識理解：ハングル文字を読み書き、易しい日常会話と発音を聞き話し、簡単な文法を説明できる。 関心意欲：異文化コミュニケーションに興味を持てる。 態　　度：専門性、責任意識を持つ。 思考判断：日本と韓国との文化や社会的共通点と相違点を指摘できる。
授業計画	第１回　授業計画（韓国を知る・ことばの特徴・ハングル文字について）と自己紹介 第２回　テキスト第１課 挨拶表現(1)と母音(1)、歌の学習 第３回　テキスト第2課 挨拶表現(2)と子音(1) ・母音(2) 第４回　テキスト第3課 挨拶表現(3) と子音(2) ・母音(3) 第５回　テキスト第4課 挨拶表現(4)と終声(パッチム) 第６回　テキスト第5課 挨拶表現(5)と発音の変化 第７回　テキスト第6課 自己紹介と指定詞、学生のレポート発表＆意見交換1 第８回　テキスト第7課 会話(1)と指定詞の否定形、学生のレポート発表＆意見交換2 第９回　テキスト第8課 会話(2)と？？？体、学生のレポート発表＆意見交換3 第１０回　テキスト第9課 会話(3)と漢数字、学生のレポート発表＆意見交換4 第１１回　テキスト第10課 会話(4)と固有数字、学生のレポート発表＆意見交換5 第１２回　まとめ・授業内試験(会話) 第１３回　復習や授業についての意見交換 第１４回　韓国映画鑑賞（前編） 第１５回　韓国映画鑑賞（後編） 第１６回　定期試験（筆記：ハングル文字）
授業の概要	韓国語の語順は日本語とほとんど同じなので、初めての学習者でもわかりやすい。 初めての学習者でもわかりやすく楽しめるように常に心がけ、ハングル文字の学習、易しい日常会話を中心に基本文法を扱い、講義を進めながら、韓国文化と歴史、韓国人とのコミュニケーションの取り方、DVDやインターネット等の視聴覚材料をもって韓国の歌やドラマ及び映画などを紹介する
予習	テキストを事前によく読み、新しい会話表現と基本文法の知識を再確認しておくこと。
復習	授業の際に指示した課題に積極的に取り組み、講義の内容をより理解し、応用に努めること。
テキスト	姜英淑外5人著『楽しく学ぶ　ハングル1』白帝社
参考書	入佐信宏・文賢珠著『よくわかる　韓国語STEP1』白帝社 木内明著『基礎から学ぶ　韓国語講座　初級』国書刊行会
評価方法・評価基準	・試験40％(会話:自己紹介等のフリートーク10％、筆記:ハングル文字30％) ・毎回の課題提出（会話とハングルに関する学習）20％ ・韓国文化についてのレポート提出(A4用紙１－2枚)＆発表(3分程度)20％ ・授業への参与度（遅刻や私語等減点）10％ ・数回のクイズ10％
履修上の注意	・授業中に発音練習、レポート発表＆意見交換などに積極的に参加すること。 ・授業内容の変更がある場合がある。

講義科目名称：スペイン語　　授業コード：

英文科目名称：Spanish

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
又吉　パトリシア			

授業のテーマ及び到達目標	初めてスペイン語を学ぶ学生がスペイン語の基礎文法を習得し、簡単な会話と自己紹介ができるように、またスペイン語圏の国々の事情及び文化などを知ることを目指す。
授業計画	第１回　世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係の紹介 第２回　スペイン語の特徴(アルファベット、発音、アクセント) 第３回　主語人称代名詞、SER動詞の直接法現在形の活用 第４回　名詞の性と数、定冠詞（定冠詞,不定冠詞)、HAY動詞、数字0～10 第５回　時刻と日付を表す(数字：11～、曜日、月) 第６回　ESTAR動詞の直接法現在形の活用、場所を尋ねる 第７回　SER動詞とESTAR動詞の比較 第８回　-ar動詞の直説法現在形の活用、前置詞 第９回　-erと-ir動詞の直説法現在形の活用、疑問詞 第１０回　日常生活について話す（動詞の直説法現在形の復習） 第１１回　値段の聞き方、買い物とレストランでの会話 第１２回　間接目的格人称代名詞、GUSTAR型の動詞の活用 第１３回　スペインの夏祭りの紹介 第１４回　学期のまとめと復習 第１５回　自己紹介また家族の紹介についての発表 第１６回　期末試験
授業の概要	世界のスペイン語を話す人口は現在およそ４億人以上といわれ、スペインだけでなくラテンアメリカの１９の国々でも公用語として使用されている。特に沖縄県では多くの移民を中南米へ送り出したという歴史的な理由から、今日でも経済的、文化的な交流が活発に行われている状況にある。 講義では教科書だけではなく、副教材として歌やビデオ教材、映画などを使って、スペイン語圏の世界を紹介する。
予習	教科書やプリントなど事前によく読み、語彙と文法を再確認しておくこと
復習	授業で学んだ文法や表現などを暗記し、自然に言えるように努めること
テキスト	1. 『OKINAWA LATINA』スペイン語への架け橋　(沖縄県スペイン語教材開発研究会)(¥1,000)
参考書	1. 講師作成資料 2.「スペイン語ミニ辞典」宮城･宮本編 白水社(¥2,800)、またはスペイン語電子辞書
評価方法・評価基準	最終評価は次の点の合計点とする: 1. テスト（60点）　Quizと筆記テスト（10点）　口頭テスト 2. 宿題及び課題の提出（20点） 3. 授業態度と参加（10点） 注意：授業総時間数の1/3（5回)以上欠席した場合は単位を与えない。
履修上の注意	① ノート、筆記用具、テキストと出席表を持参すること。 ② 動詞の活用をよく予習・練習すること。 ③ 頻繁に小テストを実施するため宿題､予習､復習等をこなすこと。 ④ 配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。

	⑤ 授業中はマナーを守ること（携帯電話・スマートフォン、タブレット等の使用禁止、遅刻しないこと、居眠りと飲食の禁止）

講義科目名称：キリスト教人間学　　授業コード：

英文科目名称：Christian Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
青野　和彦			

授業のテーマ及び到達目標	本講義は聖書に基づいて、人間の生きる「道」を探求する学びである。キリスト教の死生観や「原罪」等の内面的テーマと共に、現代社会が直面する諸問題に対する聖書の観点を分かりやすく解き明かすことを目標とする。つまり、本学習を通して、キリスト教学（概論）で学んだ聖書の知識をより深めると同時に、現代社会に発信する聖書のメッセージも考察することを目指す。
授業計画	第１回　講義オリエンテーション 第２回　生命（聖書における「生」の意味、聖書から見た「クローン人間」、「人工妊娠中絶」など） 第３回　死（テーマ：安楽死と尊厳死、ホスピス・終末期ケアー、エイズ、自殺から1つ） 第４回　生命と死：震災にについて考える 第５回　愛（アガペーとエロース） 第６回　幸福 第７回　原罪 第８回　男性と女性（同性愛者、性同一性障がい者の人権等） 第９回　結婚と家庭（キリスト教の結婚観、家庭観、子供をめぐる環境など） 第１０回　労働と余暇（キリスト教から見た労働問題、所得格差など） 第１１回　社会と福祉（キリスト教から見たボランティア、少子高齢化問題など） 第１２回　国家と政治（キリスト教と「愛国心」、太平洋戦争時の国家との関わり等） 第１３回　戦争と平和①（聖書の説く戦争と平和） 第１４回　戦争と平和②（キリスト教から見た核兵器の保有の問題） 第１５回　もうひとつの世界宗教との関わり：イスラム教とキリスト教の相違点と共通点
授業の概要	「キリスト教人間学」とは、聖書、特にイエス・キリストの教え（隣人愛とキリストの十字架での身代わりの死）を土台にしつつ、人間にとってふさわしい生き方を発見するための学問である。それはまた、キリスト教の学問領域の中で「組織神学」に位置づけられ、「キリスト教倫理学」（Christian ethics）とも称される（ただし、聖書学、教会史、実践神学の領域にも及ぶ）。本講義では、キリスト教人間学（倫理）の主要な領域テーマについて、①各テーマに対する聖書の理解、②聖書のメッセージとテーマとの関連性を解説し、現代世界が抱える様々な問題解決の糸口を探っていく。
予習	教科書、資料（事前配布）を読み、次回学習するテーマ内容を把握しておく。箇所は毎回指定する。
復習	テーマに関する簡潔な「復習プリント」（レヴュー・シート）を次回の講義時に提出する。なお、内容は①テーマに関する問い（1問）、②講義の要点整理と学生からの質問（1つ）からなる。これにより、テーマの内容把握がより確実になろう。
テキスト	・日本聖書協会編『新共同訳聖書』、日本聖書協会、1987年。 ・原　栄作『現代に生きる人間像』（聖書と人間3）、新教出版、1992年。 ※テーマに関連する資料も毎回の講義時に配布する。
参考書	・小田島嘉久『キリスト教倫理入門』、ヨルダン社出版部、1988年。 ・神田健次、関根清三、金子啓一、栗林輝夫編『講座　現代キリスト教倫理』(1-4巻)、日本キリスト教団出版局、　1999年。
評価方法・評価基準	【平常点】40％：①「復習プリント」、②課題、③授業参加度。 ※「月曜礼拝」出席も本学の建学の精神、聖書およびキリスト教の幅広い理解の向上の観点から、評価に反映させる。 【期末試験（レポート）】60％ ・期末レポートは講義で扱ったテーマを１つ選択し、作成する。なお、テーマ選択方法や書式の詳細については講義の　中で連絡する。

履修上の注意	・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。 ・出席(毎回とる)。※遅刻・欠席に注意。 ・課題の提出および学生として積極的姿勢・相応しいマナーを心がけること。 ・「キリスト教学Ⅰ」、「キリスト教概論」を履修しておくことが望ましい。 ・講義やキリスト教に関する質問があれば、講義時や「オフィス・アワー」を利用するとよい。

講義科目名称：ボランティア　　授業コード：

英文科目名称：Volunteering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	１～２年	1単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
上原　明子			

授業のテーマ及び到達目標	社会に貢献できる自分を認識し、行動を通じて、自分と社会との関わりを学ぶことができる
授業計画	３０時間のボランティア活動を各自で行う。 ＊学期、学年、種別を問わない。
授業の概要	多文化共生時代を生きる「私」は、今、社会に対して何ができるのか。 真のボランティア精神育成のため、自分にできる社会奉仕を探し、実践することで、自分をみつめ、学びのきっかけを得ることを目的とする。
予習	ボランティアの意義に関してリサーチし、知識を得る
復習	実際に行ったボランティアを今後の生活で応用し、優良市民を目指す
テキスト	オーガナイザーより個別に指示。
参考書	オーガナイザーより個別に指示。
評価方法・評価基準	レポート100% 在学中に行った30時間分のボランティア活動の活動証明と、レポートを添えて、認定申請用紙と合わせて、オーガナイザーに提出。
履修上の注意	①ボランティア先への交渉等は、各自の責任において行うものとする。 ②公共性のあるボランティア活動を対象とする。 認定方法：所定の様式に添って、報告書とレポートを提出する

講義科目名称：キリスト教平和学　　授業コード：

英文科目名称：Christian Peace Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
村椿　嘉信・大城　実			

授業のテーマ及び到達目標	「平和」は自分や家族の一人ひとりに関わる問題である。政治家や活動家に任せておけばよい問題ではない。 キリスト教思想に学びながら、平和を実現するために何ができるかを考える。
授業計画	第１回　ガイダンス：聖書の視点、平和についての考え方 第２回　聖書における平和とローマの平和、アウグスティヌス 第３回　沖縄キリスト教学院の生い立ちと課題　（大城実特任教授） 第４回　アッシジのフランチェスコ、カトリックの平和思想 第５回　教会と国家、宗教戦争、宗教改革の思想 第６回　独裁者とドイツの教会、ボンヘッファーの思想 第７回　抵抗運動の可能性、白ばら運動、市民的勇気 第８回　戦争責任論、戦争から何を学ぶか 第９回　真実と共生、アーレント、サイードの思想 第１０回　マーティン・ルーサー・キングの思想 第１１回　現代における社会学と心理学、グリューンによる暴力の解明 第１２回　琉球の平和思想、沖縄戦、軍事基地の問題 第１３回　沖縄と日本、中央集権的国家、天皇制、権力構造、新植民地主義 第１４回　テロリズム、核問題、自然災害、ボランティア、平和への取り組み 第１５回　イエス・キリストの生き方と考え方、出会いと助け合い、希望 第１６回　期末試験
授業の概要	聖書（特に「山上の説教」）からイエス・キリストの生き方、考え方を学び、キリスト教の平和思想を概観する。 沖縄において、琉球の歴史、沖縄戦をふり返りながら現状を分析し、「平和の島・沖縄」を実現するために一人ひとりに何ができるかを考える。 自分を生かし、他者と共感することのできる「共生社会」を目ざすための方法を考える。それを阻害する阻害する身体的・精神的暴力の問題についても考える。 ミニレポート：講義に参加し、講義内容に関するミニレポートを提出する 平和に関するレポート：学期内に平和ついてのレポートを提出する
予習	次回講義のために予習すべきことをそのつど告知する。
復習	その日の講義内容をまとめる。
テキスト	『聖書』
参考書	アルノ・グリューンの著書、その他（教室で指示）
評価方法・評価基準	期末試験　収集した知識（情報）をもとに自分の考えをまとめる（論文形式）：50％ レポート：40％ 1)　講義内容に関するミニレポート（その都度） 2)　平和についてのレポート（小論文）の提出 授業態度：10％
履修上の注意	特になし

講義科目名称：要約筆記（ノートテイキング）　　授業コード：

英文科目名称：Note taking

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	2単位(1-1)	選択必修科目
担当教員			
酒井　ひろ子			

授業のテーマ及び到達目標	聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度や権利擁護が理解でき、対人援助の一つとして認識することが出来る。聴覚障害者の社会的状況に関心を持ち、チームで問題解決に取り組める。手書きノートテイクの基本的な書き方を習得できる。
授業計画	第１回　オリエンテーション　・聴覚障害の基礎知識　・聴覚生理と聴覚障害　・聴覚補償 第２回　聴覚障害者の基礎知識　・聴覚障害のコミュニケーション　・中途失聴・難聴者の現状と課題 第３回　要約筆記の基礎知識Ⅰ　・難聴者運動と要約筆記の歴史　・大学ノートテイクの歴史　・通訳としての要約筆記 第４回　日本語の基礎知識　・日本語の特徴　・日本語の表記　・日本語の語彙と特徴 第５回　要約筆記の基礎知識Ⅱ　・要約筆記の目的　・要約筆記の三原則　・要約筆記の表記　実習「聞きつかむ、聞いて書く」 第６回　要約筆記の基礎知識Ⅱ　・実習 要約筆記の表記 英数字や記号の表記 訂正の方法 第７回　話しことばの基礎知識 話しことばについての学習 話しことばの特徴とそぎ落とし 同時性の考え方「削除」「省略」 第８回　話しことばの基礎知識　・共有情報を活用する「共有情報」 第９回　社会福祉の基礎知識　・日本国憲法と基本的人権の尊重　・社会福祉の理念と歴史　障害者権利条約 第１０回　伝達の学習　・要約の学習 第１１回　チームワーク　・チームでの動き方　総合実習 第１２回　ノートテイク　・ノートテイクの方法　・書き方　・場面対応 第１３回　ノートテイク　・対応　・技術　・実習 第１４回　要約筆記者のあり方　・心構えと倫理　・要約筆記者としての専門性 第１５回　まとめ　・第1回～第14回までのまとめ 第１６回　期末試験
授業の概要	この授業では、音声中心の社会での聴覚障害者の現状と課題を理解するために、講義・ＤＶＤ・実習を組み合わせます。 手書き大学ノートテイクの基礎知識を習得すると共に難聴者、中途失聴者に対しての対応の方法を学びます。
予習	テキストを事前に読み、講義の内容を確認しておく。
復習	レジュメをもとに、より理解し、習得する
テキスト	厚生労働省カリキュラム準拠　要約筆記者養成テキスト（上）（下） 「要約筆記者養成テキスト」作成委員会
参考書	特になし
評価方法・評価基準	試験３０％、レポート３０％、授業態度２０％、演習２０％、１/3以上の欠席は不可。
履修上の注意	ペン、白紙は各自で毎回用意する。（１回目に説明）

講義科目名称：科学リテラシー　　授業コード：

英文科目名称：Science Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	2単位(1-1)	選択必修科目
担当教員			
内間　清晴			

授業のテーマ及び到達目標	自然現象を定性的に理解し、科学的な物の考え方・見方ができる。 科学リテラシー（問題解決能力）を修得する。
授業計画	第１回　日本の科学リテラシーについて 第２回　大気圧、風（台風） 第３回　光、光の分光について（可視光線、虹について） 分光器 第４回　光、光回折、屈折、干渉について 万華鏡の作成 第５回　光、光回折、屈折、干渉について 立体万華鏡 第６回　光の干渉、偏光について、光の屈折率 偏光板 第７回　波、地震について 第８回　静電気 簡易コンデンサーの作成 第９回　電流について 電気のしくみ 第１０回　電流と磁石について モータの仕組み、 第１１回　電流と抵抗 ヒータのしくみ 第１２回　地球温暖化とクリーンエネルギーについて、極低温の世界 第１３回　課題学習1、学生各自が設定したテーマ（実験）の原理のまとめ 学生各自が設定したテーマ（実験）の原理のまとめ、 第１４回　課題学習2、学生各自が設定したテーマ（実験）の実験装置の作成 第１５回　課題学習3、学生各自が設定したテーマ（実験）の実験装置の発表
授業の概要	① 近年理科嫌いの生徒・学生が増えている。その理由に、これまでの学校教育が計算主導型、受験対策型であったことが考えられる。今講義では、難しい数式を利用せずに、物作りを通して、自然現象を理解する。 ☆特に保育科の学生に対しては、子ども達が自然現象に感動し、自然事象にたいする探求力・想像力を育成できる保育者の養成を目的とする。 ② 毎回、講義で理解したことを提出する。
予習	毎回の講義内容をの復習し、講義中に指示された課題を行う事によってより理解を深め、次回の講義に臨むこと。
復習	毎回の講義内容をの復習し、講義中に指示された課題を行う事によってより理解を深め、次回の講義に臨むこと。
テキスト	教科書は使用しません。毎時間プリントを配布いたします。
参考書	必要に応じて講義内で紹介致します。
評価方法・評価基準	①　課題・レポート90点　②　授業への参加意欲10点
履修上の注意	作成した実験道具は持ち帰ってもらいます。 そのため教材費として各自2,000円を納めてもらいます。

講義科目名称：はじめての日本語教育　　授業コード：

英文科目名称：Japanese language teaching Introduction

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
上原　明子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：日本語の構造、日本語教育について深く考えることができるようになる 思考判断：教えるという視点から日本語に触れることで新たな発見ができる 関心意欲：自文化と異文化への理解を通して多文化共生について考えることができる 態　　度：他者理解と自己認識が育まれる
授業計画	第１回　　オリエンテーション/学習ストラテジー　（テキスト9章対応） 第２回　　言語としての日本語　（テキスト１章対応） 第３回　　日本語の音声（1）理論　（テキスト２章対応） 第４回　　日本語の音声（2）実践　（テキスト2章対応） 第５回　　日本語の文法（1）理論　（テキスト3章対応） 第６回　　日本語の文法（2）実践　（テキスト3章対応） 第７回　　日本語の文法（3）応用　（テキスト3章対応） 第８回　　文字・表記　（テキスト4章対応） 第９回　　語彙（1）理論　（テキスト5章対応） 第１０回　　語彙（2）実践　（テキスト5章対応） 第１１回　　語彙（3）応用　（テキスト5章対応） 第１２回　　社会言語学　（テキスト6章対応） 第１３回　　心理学（テキスト7章対応） 第１４回　　第二言語習得（テキスト８章対応） 第１５回　　課題報告とまとめ
授業の概要	日本語を教える立場に立ち、日本語文法を学ぶことで、新しい視点から日本語を学ぶ 外国語教育の一環としての学びを通し、「共に生きる」という社会人としての姿勢を培うことにもつながる。
予習	シラバスを確認し、授業で扱う作品を精読しておくこと。
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと。
テキスト	『はじめての日本語教育・1[日本語教育の基礎知識]』高見澤孟　監修（アスク講談社）
参考書	講義にて紹介
評価方法・評価基準	1　毎回のフィードバックレポート提出　　2　課題への取り組みと試験 小テスト・授業内レポート30%　授業態度40%　受講者の発表30%
履修上の注意	・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください

講義科目名称：文系学生のための基礎数学演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：Basic Math. Exercise for Liberal Arts Students Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１～２年	2単位(1-1)	選択必修科目
担当教員			
内間　清晴			

授業のテーマ及び到達目標	① 数学の基礎・基本を十分に理解し、基本的な数式の計算ができ、数学的なもののの考え方ができる。 ② ある事柄や現象を式、図、表、グラフ等を用いて数学的に表現することができる。
授業計画	第１回　　イントロダクション 第２回　　仕事 第３回　　割合 第４回　　方程式 第５回　　連立方程式 第６回　　損益算 第７回　　平均の速さと速度 第８回　　場合の数 第９回　　順列と組み合わせ 第１０回　　確率（基礎問題） 第１１回　　確率（応用問題） 第１２回　　精算 第１３回　　割合 第１４回　　分割払い（基礎） 第１５回　　分割払い（応用） 第１６回　　期末試験
授業の概要	① 数学の基本的な知識、概念を学ぶ事を通して論理的思考力を養成する。数学の基礎・基本を十分に理解する。具体的には講義形式だけではなく、演習も行い、教養としての数学を学ぶ。 ② 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。 ③ 前回の講義内容の理解度を確認するために、講義の最初の部分で小テストを行う。
予習	次回の講義内容に関する例題の問題を行う。
復習	毎回の講義内容（演習問題）の復習を行う。講義内に指示された問題演習を行う。
テキスト	最新最強のSPI
参考書	適宜に提供
評価方法・評価基準	総合的な評価で、次の項目が大切となります。 ①　筆記試験　80%、　②　レポート・豆テスト等　10%　③授業への参加意欲　10%
履修上の注意	毎回の講義を大切にして予習・復習を必ず行う事。

講義科目名称：文系学生のための基礎数学演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：Basic Math. Exercise for Liberal Arts Students Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	2単位(1-1)	選択必修科目
担当教員			
内間　清晴			

授業のテーマ及び到達目標	① 数学の基礎・基本を十分に理解し、基本的な数式の計算ができ、数学的なものの考え方ができる。 ② ある事柄や現象を式、図、表、グラフ等を用いて数学的に表現することができる
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　推論（順序） 第３回　推論（対応関係） 第４回　推論（内訳） 第５回　集合（基礎） 第６回　集合（応用） 第７回　方程式と不等式 第８回　グラフの領域（基礎） 第９回　グラフの領域（応用） 第１０回　関数とグラフ（基礎） 第１１回　関数とグラフ（応用） 第１２回　図形の読み取り 第１３回　ブラックボックス 第１４回　等差数列 第１５回　等比数列 第１６回　期末試験
授業の概要	① 数学の基本的な知識、概念を学ぶ事を通して論理的思考力を養成する。具体的には講義形式だけではなく、演習も行い、教養としての数学を学ぶ。 ② 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。 ③ 毎回の講義内容の理解度を確認するために、講義の最初の部分で小テストを行う。
予習	次回の講義内容に関する例題の問題を行う。
復習	毎回の講義内容（演習問題）の復習を行う。講義内に指示された問題演習を行う。
テキスト	最新最強のSPI
参考書	適宜に提供
評価方法・評価基準	総合的な評価で、次の項目が大切となります。 ①　筆記試験　80%、　②　レポート・豆テスト等　10%　③序業への参加意欲　10%
履修上の注意	毎回の講義を大切にして予習・復習を必ず行う事。

講義科目名称：沖縄の言語　　授業コード：

英文科目名称：Okinawan Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
仲原　穣			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：沖縄語の基礎的な内容を理解し，説明できる。 関心意欲：沖縄の家庭・地域・社会などで話されている言葉に興味を持てる。 思考判断：伝統的な言語を使用するお年寄りの話しを理解することができる。 態　　度：方言だから簡単だろうという考えではなく，外国語を習得するような謙虚な気持ちを持つ。
授業計画	第１回　講義概要，琉球語とは 第２回　琉球諸方言の多様性 第３回　音のしくみ（母音①）第１課 第４回　音のしくみ（母音②／子音①）第１課 第５回　文のしくみ（助詞①／指示語），音のしくみ（母音③）第1課 第６回　文のしくみ（サ形容詞①／動詞①）第２課 第７回　文のしくみ（動詞②），音のしくみ（子音②）第２課 第８回　中間試験，音と文のしくみ（ウチナーグチ独特の音，助詞②）第２課 第９回　文のしくみ（動詞③）第３課 第１０回　文のしくみ（係り結び）第３課 第１１回　文のしくみ（疑問文）第４課 第１２回　文のしくみ（丁寧な言い方①〔動詞･形容詞〕）第５課 第１３回　文のしくみ（動詞④）第５課 第１４回　文のしくみ（ナ形容詞と過去の表現）第６課 第１５回　まとめ　第６課 第１６回　期末試験
授業の概要	この科目は沖縄で使われている伝統的なことばの基本的な知識を身につけ，老年層のことばを聞き取ること，簡単な会話をする力を身につけることを目的とした授業である。旅行用の会話集のような決められた文だけを覚えるという手法では，老年層の方々との会話は成り立たない。相手のことばを聞いて理解し，自分が伝えたいことを相手にうまく伝える会話のキャッチボールが続かなければコミュニケーションがとれないからである。授業のなかで音の特徴や文のしくみなどの基礎的な知識を学ぶことで、お年寄りのことばが自然に耳に入ってくるようになり，会話の鎖がつながる。 授業では，会話文を基にした教科書を使って学ぶ。また，沖縄のことわざやわらべうたなども使用する。なお，授業は沖縄語の一つである「首里方言」を中心に進める。
予習	予定している講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所に目を通してくる
復習	講義で配られたプリントを次の講義までに読み返し、自力で問題が解けるか確認する。 また、宿題が課されている場合は必ず解いてくること
テキスト	西岡敏・仲原穣[著]，中島由美・伊狩典子[協力] 『ＣＤ付改訂版　沖縄語の入門　―たのしいウチナーグチ― 』（白水社）
参考書	外間守善[著]『沖縄の言葉と歴史』中央公論社 野原三義[著]『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社 国立国語研究所[編]『沖縄語辞典』財務省印刷局
評価方法・評価基準	期末試験：70%　小テスト・授業内レポート：15%　授業態度：15%

履修上の注意	配布するプリントや資料を綴り，毎時間持参すること。

講義科目名称：沖縄の歴史と現在　　授業コード：

英文科目名称：Okinawa modern history

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
新城　俊昭			

授業のテーマ及び到達目標	琉球併合から現代にいたる沖縄の歴史を理解することで、現代の沖縄を取り巻く諸問題に向き合うための基礎学力を習得する。
授業計画	第１回　授業を始めるにあたって。明治政府による琉球併合 第２回　旧慣温存策と沖縄県政―沖縄民衆は世替わりをどのように受け止めたか 第３回　謝花昇の民権運動と人頭税廃止運動―県民は権利をどのようにして獲得したか 第４回　昭和恐慌と移民―ソテツ地獄とはどのような社会状況か 第５回　軍国主義の台頭―15年戦争はどのように始まったか 第６回　戦時体制と県民の暮らし―標準語励行運動がもたらしたものは何か 第７回　アジア太平洋戦争と沖縄―日本はなぜ米国と戦争を始めたのか 第８回　沖縄戦前夜（対馬丸事件,10・10空襲）―沖縄戦はなぜ起こったか 第９回　沖縄戦の実相―沖縄戦から何を学ぶか 第１０回　米軍支配のはじまり―戦後の焼け跡から沖縄住民はどのように立ち上がったか 第１１回　琉球政府の設立―島ぐるみ闘争はなぜおこったのか 第１２回　日本復帰運動―沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだのか 第１３回　新生沖縄県―日本復帰で何が変わり、何が問題となったのか 第１４回　現代の沖縄―基地問題など現代沖縄の課題にどう立ち向かうべきか、考えてみよう① 第１５回　現代の沖縄―基地問題など現代沖縄の課題にどう立ち向かうべきか、考えてみよう② 第１６回　確認試験
授業の概要	１　現代沖縄の諸問題の根源を、廃琉置県から現代までの沖縄の歴史を学ぶことで考察する。 ２　日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。 ３　沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(ウチナーンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。
予習	事前に配布されたプリントの内容をテキストで調べ、授業に臨むこと
復習	授業での問題点・課題をテキスト等で調べてまとめること
テキスト	新城俊昭『教養講座　琉球・沖縄史』　編集工房東洋企画発行。その他、必要に応じて資料を配布。
参考書	新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』　編集工房東洋企画発行。新城俊昭『琉球・沖縄　歴史人物伝』　沖縄時事出版発行。新城俊昭『戦後100年へのメッセージ　2045年のあなたへ』　時事出版発行。その他
評価方法・評価基準	評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題（レポート形式）、確認試験で行う。 配分は、毎時間の授業評価(小テスト形式)30%、課題(フィールドワークのレポート)30%、確認試験(予め与えたプリントから出題)40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加点・減点することもある。
履修上の注意	毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無 いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用して メモをするなど、各自で工夫すること。

講義科目名称：基礎英語コミュニケーション　　授業コード：

英文科目名称：Basic English Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	１～２年	２単位	選択必修科目
担当教員			
Michael Hertz			

授業のテーマ及び到達目標	今日の保育園や幼稚園でますます必要とされる英語でのコミュニケーションの習得と、海外留学を希望する学生にとって役立つ知識の習得を目標とする。
授業計画	第１回　保育園や幼稚園でよく使われる英語の語彙を学習する。 第２回　定番のゲームを行い、英語を使用・理解する力を身につける。 第３回　ゲームの構成を噛み砕いて説明し、ゲームから得られる教訓を理解する。 第４回　童謡を学び、実際に合唱する。 第５回　児童向けのダンスを学び、練習する。 第６回　楽しみながら、言語的・非言語的なスキルを構築する。 第７回　簡単なスキット(寸劇)に参加する。 第８回　絵本の読み聞かせをし、絵本に隠された趣旨を読み取る。 第９回　良い例から、授業の進め方・児童の扱い方を学ぶ。 第１０回　悪い例から、授業の進め方･児童の扱い方を考える。 第１１回　グループワークに取り組む。 第１２回　基本的な英語の発音を学び、練習する。 第１３回　図画工作(詳細は未定) 第１４回　海外渡航に備える。 第１５回　児童を褒めるテクニックについて学ぶ。
授業の概要	簡単なスキット(寸劇)、童謡の合唱、ゲームや講義を通して、学生の能力を向上させ、自信をつける。楽しく活発なクラスになるよう計画されており、保育でのキャリアを構築する為の踏み台ともなりうる。
予習	次回のレッスンのために、自分で考えてレッスンの準備をする。
復習	授業で学んだことを応用して実践する。
テキスト	追加で連絡がない限り、必要に応じて講義担当者が準備・配布する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	講義参加度（態度、プレゼンテーション等）、個人およびグループワークを総合的に評価する。
履修上の注意	・クラスへの参加が最も重要視されるので、欠席しないように。 ・グループや個人での発表は積極的に取り組むこと。 ・正当な理由以外での欠席は認められません。よってそれ以外の欠席は届けなくてもよい。(公欠のみ提出) ・出席状況については各自で確認すること。

講義科目名称：実用英語コミュニケーション　　授業コード：

英文科目名称：Practical English Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	１～２年	２単位	選択必修科目
担当教員			
Michael Hertz			

授業のテーマ及び到達目標	今日ますます必要とされる英語コミュニケーションスキルの習得、それから、初級英語の習得･海外留学・様々な場面や保育を含む幅広い業界で使用される会話スキルの習得を志す学生に役立つ知識と見識の構築を目標とする。
授業計画	第１回　言葉やボディランゲージでのコミュニケーションスキルの構築 第２回　会話に必要なボキャブラリーの学習 第３回　仕事で求められるボキャブラリーの学習 第４回　発音の土台を構築 第５回　様々な状況で使えるフレーズの練習 第６回　定番ゲームを使った英語理解 第７回　英語使用に対する自信の構築とそれに伴う達成感や成功体験 第８回　自分に打ち勝つこと、モチベーションを高めること。 第９回　成功に向けてプレッシャーや壁を突破：やりたいことVSやるべきこと 第１０回　アルバイトの面接の質疑応答対策 第１１回　英語での数字の読み方を練習 第１２回　簡単なスキット(寸劇)への参加 第１３回　簡単な歌やダンスの体験 第１４回　道案内のしかた 第１５回　海外旅行･留学に欠かせない単語
授業の概要	学生は、英語の言語能力と理解力をつけ、自信を高める為に様々なアクティビティや講義に参加する。次学期以降の履修クラスに必要なスキルの習得に重点をおいた楽しく啓発的なクラスである。
予習	次回のレッスンのために、自分で考えてレッスンの準備をする。
復習	授業で学んだことを応用して実践する。
テキスト	追加で連絡がない限り、必要に応じて講義担当者が準備・配布する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	講義参加度（態度、プレゼンテーション等）、個人・グループ課題を総合的に評価する。
履修上の注意	・クラスへの参加が最も重要視されるので、欠席しないように。 ・グループや個人での発表は積極的に取り組むこと。 ・正当な理由以外での欠席は認められません。よってそれ以外の欠席は届けなくてもよい。(公欠のみ提出) ・出席状況については各自で確認すること。